

地藏十輪經元慶點

422
58



始



地藏十輪經元慶點

摘要

地藏十輪經

一 評公寫真

生无間地獄又善男子昔有國王名趣福德
 有人犯過罪應合死王性王仁慈不欲斷命有
 一大臣多諸智策前白王曰願勿為憂終不
 令王得致生罪不付刑令致此人時彼大
 臣以己智力將犯罪人付惡醉鳥將惡醉鳥
 以鼻卷取罪人兩脰舉上空中盡其勢力欲
 作於地忽見此人蒙有赤色謂是袈裟心生
 淨信便除置地懺謝悲歎跪伏於前以鼻校
 足心生敬重瞻仰彼人大臣見已馳還白王
 王聞喜愕歎未曾有便勅國人加敬三寶因

地藏十輪經元慶元年

著者	唐法師撰
本數	八卷
紙	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十
教	三、三、三、三、三、三、三、三、三、三
訓	元慶元年
代	東大寺藏
時	東大寺藏
在	東大寺藏

此の經は地藏菩薩の功德を讃歎せるものなり
 説く可頗る深し編者の如き佛典に情れざるもの
 容易に本首を挿入すに非ざれば今十輪を
 以て名とするにつきて管みに云けし輪は運轉を主と
 し又摧破を兼ぬるものなるが故に之を修善と煩悩
 を破すとの二義に當り此の義に相應する教條を法
 輪といふより更に轉じて軌
 則の義となす故に十輪即
 ち十教條と云ふに同じく此の
 教條を修養成就したるに
 は皆轉輪云々四輪に如し
 て四大洲を巡りて能く自在な
 るが如く身心の濁穢を除き
 長壽安樂疑ひなきことを獲
 けりとの如し
 此の本全部十卷なる中
 卷は東大寺に藏し三卷は
 て同寺より献納す正倉院
 聖德太子御書にあり其餘
 二卷所在を知らず此の本の
 如題は寫真に掲げた如く
 元慶元年九月云々と卷一末亦
 に記されたるのみをば其の
 人知らば由なけれと今一
 千餘年前唐武宗皇帝の地
 藏をこゝを疑ふといふを
 り但し交通の字義明らむか
 ず姑く其の交は校の省に於て校
 合の意をいふ而も其の識語
 第一卷にのみあれと通東地

（一）寸九卷本原
 此の本全部十卷なる中
 卷は東大寺に藏し三卷は
 て同寺より献納す正倉院
 聖德太子御書にあり其餘
 二卷所在を知らず此の本の
 如題は寫真に掲げた如く
 元慶元年九月云々と卷一末亦
 に記されたるのみをば其の
 人知らば由なけれと今一
 千餘年前唐武宗皇帝の地
 藏をこゝを疑ふといふを
 り但し交通の字義明らむか
 ず姑く其の交は校の省に於て校
 合の意をいふ而も其の識語
 第一卷にのみあれと通東地

10.8.19 寄贈

本書八本會ニ於テ援助セル事業ノ
 成績ニ有之御参考ニ迄寄贈仕候
 大正十年八月十七日

財團法人啓明會

帝國圖書館 御中

讀語

假使百劫中 讀說其功德 猶尚不能盡 故當當供養

大乘大集地藏十輪經卷第一

摘

前文讀方

要

二

○○○○○又善男子昔有國王名趣福德 有人犯過罪應命死王性仁慈不欲斷命有 一大臣多諸智策前白王曰願勿為憂終不 令王得殺生罪不付魁贈令殺此人時彼大 臣以已智力將犯罪人付惡醉象時惡醉象 以鼻卷取罪人兩脛舉上空空中盡其勢力欲 撲於地忽見此人裳有赤色謂是袈裟心生 淨信便徐置地懺謝悲踊跪伏於前以鼻拭

の云々下二行のオヲをえ混用せり是より従来編者の 五上の誤りたるもの延喜以前に絶えきと云ふ所は 想と云ふも西四五十年前の元慶に於て既に云ふ如きもの ありあはれ而も之に云ふ此の時代と一般に五上の混用せしは 考すべし非ず普通にも各別之間に格に此の如きものあり のみこに早く後名文上注意を要する備置ありと云ふべし

凡例

凡そ古寫經には古字あり異傳の字ありを當らず是れ所 在の字を沿襲せしものなりやざんといふべし此の經本 全し探字と見ゆもの一に之を足らず今摘抄するに方 一、板本と合考し是しものものは初見の字下に之れを 注したる 此の編の列點白黒相錯れ白は原本に從ひ黒は編者 の施すべしとす 原本間、欄外に音訓を注すものあり之れを摘出すに方 上欄に注すものは字白上下欄のものは其下に一横線を 畫して之れを出だす 傳例中注の誤讀あり故に時に一項を設けて下に專げたり

點例

點例中樂く所の點形は每點同筆形を以て云ふべし 中には時により「を」「も」「を」に「を」を 是し「を」を「可」あり而も點例に於ては「」のみに「た」 他は推して知るべし

摘

要

三

足心生敬重瞻仰彼人大臣見已馳還白王 王聞喜愕歎未曾有便勅國人加敬三寶因 斯斷殺王膳部洲善男子當觀如是過去醉 象雖度无暇傍生趣身而放袈裟不造惡業 然未來世有利帝利旃荼羅王宰官居士長 者沙門婆羅門等旃荼羅人心懷毒惡无有 慈愍

傍訓

一乘三乘之爲安可以同其讚歎哉何以明之 惡時去聖没

遠取根比之坏器空 況醉五欲類石田之不苗放肆十惡似真身之 垢穢 陶坏器 後石田 空閒 失魄 謬 以千里能勿悲乎 文 護 遂使 深翰 探紙 杜絕外慮 務詳 密法 重放梵文 詳明 警法雷 不寒不熱安靜坦然 防 可採寶 如疾飄風 動



善念念之 規未名利以自活命 (一)(二) 菩薩 行大慈 能斷野解脫樂器 不寒不熱 兼他見聞隨喜 (三) 先現如是神通之相 更不造新惡不善業 歸敬三寶



(一) 云何菩薩世間般若智 此菩薩是諸微妙功德 伏藏是諸解脫珍寶出處是諸菩薩明 法眼目 (二) 從定起 (三) 從佛心 生從佛口 (四) 龍神所供養 (五) 精行大慈



(三) 佛世尊所親承持受此 陀羅尼 (四) 諸大菩薩摩訶薩

摘

如夏速行可拔大樹、開生悚懼心、佛國去此遠近、惑意不信受、被囚執鞭、徒楚、臨當被害、為火、所焚、為水、所溺、為風、所飄、所擊、若諸有情、惡鬼、所持、成諸、疔、瘡、病、或、日、發、或、隔、日、發、或、三、四、日、一、發、者、若、勤、營、營、致、成、不、營、營、有、能、至、心、稱、名、念、誦、花、葉、茂、實、成、熟、潤、澤、香、潔、矣、一、美、道、可、在、履、如、寶、手、辟、如、堅、固、無、缺、無、壞、未、一、在、偏袒一肩、更相侵害、脩善提道、冠飾、枯涸、昔所未轉而今轉之、營、營、振、恆、沒、居、以、善、教、苦、切、可、責、知、令、增、壽、命、共、味、喜、情、共、味、理、諸、王、務、暗、置、散、盡、穢、勝、行、淫、欲、理、王、教、或、為、太、子、美、聲、統、四、洲、諸、統、四、大、洲、跨、王、大、地、具、解、法、際、皆、停、刀、仗、不、舉、善、薩、住、知、堪、得、元、上、一、切、智、常、欣、利、樂、速、得、果、證、

要

如夏速行可拔大樹、開生悚懼心、佛國去此遠近、惑意不信受、被囚執鞭、徒楚、臨當被害、為火、所焚、為水、所溺、為風、所飄、所擊、若諸有情、惡鬼、所持、成諸、疔、瘡、病、或、日、發、或、隔、日、發、或、三、四、日、一、發、者、若、勤、營、營、致、成、不、營、營、有、能、至、心、稱、名、念、誦、花、葉、茂、實、成、熟、潤、澤、香、潔、矣、一、美、道、可、在、履、如、寶、手、辟、如、堅、固、無、缺、無、壞、未、一、在、偏袒一肩、更相侵害、脩善提道、冠飾、枯涸、昔所未轉而今轉之、營、營、振、恆、沒、居、以、善、教、苦、切、可、責、知、令、增、壽、命、共、味、喜、情、共、味、理、諸、王、務、暗、置、散、盡、穢、勝、行、淫、欲、理、王、教、或、為、太、子、美、聲、統、四、洲、諸、統、四、大、洲、跨、王、大、地、具、解、法、際、皆、停、刀、仗、不、舉、善、薩、住、知、堪、得、元、上、一、切、智、常、欣、利、樂、速、得、果、證、

四

為大法王、今不趣向、無間地獄、信、俗、務、為、反、爐、結、舌、不、言、痛、切、言、詐、相、謂、言、朋、友、眷、屬、更、相、腹、恨、謂、謀、猜、或、無、惡、无、惡、不、復、擁、護、為、反、爐、禁、燒、桃、壞、榜、楚、加、乃、往、過、去、詐、我、多、捨、前、徐、行、視、現、來、越、我、等、持、非、我、等、命、故、直、耶、說、頌、曰、汝、勿、懷、疑、慮、宜、應、速、攝、心、被、此、法、友、人、欲、度、生、死、海、以、善、箭、射、中、善、射、為、善、王、心、智、者、非、為、命、以、鞭、杖、楚、徒、其、身、一、大、去、廣、可、心、驚、毛、豎、時、縛、其、五、處、送、錫、藍、婆、大、岳、燒、一、偶、得、一、片、自、營、其、類、身、心、驚、悚、時、息、苦、身、心、被、人、五、肉、甘、美、呵、領、告、衆、人、恭、德、升、思、辭、息、時、兩、目、狂、舉、上、空、中、盡、其、勢、力、欲、撲、撲、於、地、跪、伏、三、兩、目、皆、數、未、有、使、動、圓、人、如、放、三、寶、不、違、惡、業、使、同、驅、逐、麻、粒、乾、死、酒、一、

摘

為大法王、今不趣向、無間地獄、信、俗、務、為、反、爐、結、舌、不、言、痛、切、言、詐、相、謂、言、朋、友、眷、屬、更、相、腹、恨、謂、謀、猜、或、無、惡、无、惡、不、復、擁、護、為、反、爐、禁、燒、桃、壞、榜、楚、加、乃、往、過、去、詐、我、多、捨、前、徐、行、視、現、來、越、我、等、持、非、我、等、命、故、直、耶、說、頌、曰、汝、勿、懷、疑、慮、宜、應、速、攝、心、被、此、法、友、人、欲、度、生、死、海、以、善、箭、射、中、善、射、為、善、王、心、智、者、非、為、命、以、鞭、杖、楚、徒、其、身、一、大、去、廣、可、心、驚、毛、豎、時、縛、其、五、處、送、錫、藍、婆、大、岳、燒、一、偶、得、一、片、自、營、其、類、身、心、驚、悚、時、息、苦、身、心、被、人、五、肉、甘、美、呵、領、告、衆、人、恭、德、升、思、辭、息、時、兩、目、狂、舉、上、空、中、盡、其、勢、力、欲、撲、撲、於、地、跪、伏、三、兩、目、皆、數、未、有、使、動、圓、人、如、放、三、寶、不、違、惡、業、使、同、驅、逐、麻、粒、乾、死、酒、一、

要

為大法王、今不趣向、無間地獄、信、俗、務、為、反、爐、結、舌、不、言、痛、切、言、詐、相、謂、言、朋、友、眷、屬、更、相、腹、恨、謂、謀、猜、或、無、惡、无、惡、不、復、擁、護、為、反、爐、禁、燒、桃、壞、榜、楚、加、乃、往、過、去、詐、我、多、捨、前、徐、行、視、現、來、越、我、等、持、非、我、等、命、故、直、耶、說、頌、曰、汝、勿、懷、疑、慮、宜、應、速、攝、心、被、此、法、友、人、欲、度、生、死、海、以、善、箭、射、中、善、射、為、善、王、心、智、者、非、為、命、以、鞭、杖、楚、徒、其、身、一、大、去、廣、可、心、驚、毛、豎、時、縛、其、五、處、送、錫、藍、婆、大、岳、燒、一、偶、得、一、片、自、營、其、類、身、心、驚、悚、時、息、苦、身、心、被、人、五、肉、甘、美、呵、領、告、衆、人、恭、德、升、思、辭、息、時、兩、目、狂、舉、上、空、中、盡、其、勢、力、欲、撲、撲、於、地、跪、伏、三、兩、目、皆、數、未、有、使、動、圓、人、如、放、三、寶、不、違、惡、業、使、同、驅、逐、麻、粒、乾、死、酒、一、

五

為大法王、今不趣向、無間地獄、信、俗、務、為、反、爐、結、舌、不、言、痛、切、言、詐、相、謂、言、朋、友、眷、屬、更、相、腹、恨、謂、謀、猜、或、無、惡、无、惡、不、復、擁、護、為、反、爐、禁、燒、桃、壞、榜、楚、加、乃、往、過、去、詐、我、多、捨、前、徐、行、視、現、來、越、我、等、持、非、我、等、命、故、直、耶、說、頌、曰、汝、勿、懷、疑、慮、宜、應、速、攝、心、被、此、法、友、人、欲、度、生、死、海、以、善、箭、射、中、善、射、為、善、王、心、智、者、非、為、命、以、鞭、杖、楚、徒、其、身、一、大、去、廣、可、心、驚、毛、豎、時、縛、其、五、處、送、錫、藍、婆、大、岳、燒、一、偶、得、一、片、自、營、其、類、身、心、驚、悚、時、息、苦、身、心、被、人、五、肉、甘、美、呵、領、告、衆、人、恭、德、升、思、辭、息、時、兩、目、狂、舉、上、空、中、盡、其、勢、力、欲、撲、撲、於、地、跪、伏、三、兩、目、皆、數、未、有、使、動、圓、人、如、放、三、寶、不、違、惡、業、使、同、驅、逐、麻、粒、乾、死、酒、一、

〔下〕今諸有情、皆在、皆、猛、安、意、不、動、猶、如、大、地、靜、慮、深、密、如、如、武、〔下〕〔一〕終不自棄、不棄他、棄亦不自用、不棄用於、能、辨、說、三、乘、法、自、稱、稱、我、是、大、乘、

〔二〕以此、觀、觀、永、解、諸、惡、惡、常、得、見、諸、佛、緣、聲、聞、獨、覺、

〔三〕天、人、龍、神、所、供、養、

〔四〕皆、當、供、養、今、當、說、我、佛、世、尊、佛、神、力、故、

〔五〕善、薩、大、名、稱、普、為、諸、有、情、

〔六〕佛、言、善、男子、有、十、種、補、特、伽、羅、一、者、猛、利、會、敬、七、者、猛、利、頂、禮、

〔七〕善、深、敬、法、所、起、之、灌、以、大、慈、水、脫、苦、得、清、涼、

〔八〕去、佛、他、梵、不、違、而、生、

〔九〕等、十、二、過、載、此、輪、故、

〔十〕不、忘、人、果、報、於、現、身、中、能、當、諸、佛、是、說、法、

〔十一〕為、諸、有、情、如、應、說、法、如、是、修、習、

〔十二〕共、親、慶、元、精、意、行、世、

〔十三〕如、月、清、精、進、究、竟、〔一〕〔二〕具、學、先、三、治、國、正、法、十、善、業、道、攝、世、間、隨、其、所、宜、方、便、化、道、

〔十四〕自、稱、我、是、大、仙、尊、位、

〔十五〕衆、生、聞、佛、再、說、一、切、大、衆、聞、佛、可、說、皆、大、歡、喜、信、受、奉、行、

〔十六〕與、佛、者、為、城、由、本、願、力、成、就、十、種、佛、輪、世、尊、請、觀、如、是、世、間、衆、生、

〔十七〕如是相續、

〔十八〕善、薩、摩、訶、薩、能、盡、形、壽、樂、不、衰、取、點、之、方、隔、在、三、之、例、一、例、外、見、當、十、大、左、隔、之、三、三、之、例、一、例、也、

充備 如、菜林 震 焚燒 可獲福聚 諸功

德者 惡友之所摧伏 不障 諸有所為心无忘失 為

昇進沉淪 遠 智慧周法界 彼 昔言 有 清衆

可棄如海屍 都不分別 怖懼 不教教作諸惡行

彼有 方 內懷腐敗 赴火自餓等 人死屍腫脹

爛臭 以上第一 未審 曾未寧靜 故 二乘涅槃

况得大衆 披毘師子皮而便自謂 誘誑愚癡 脩

唯言 善 猛如救頭然 往諸惡趣 從今以往

遇聞 往諸惡趣 世尊知而故問汝等宿世作何惡業

從今以往 揚惡 期赴迫宵 咸是有罪犯 有千

如來出現於世 慍慍切 定不許處為亦許耶

當墮 墮墮無間地獄受諸劇苦 懺悔 以上第一

為輪 所轉皆悉摧壞 不經受用 善男子如利劍輪 獲一獲掣

退散 悉皆敷 惡業 清徹 以上第一 誘誑 專

一 所生 以上第一 受 名 一 所生 縛 諸山等 為灰

水浸爛銷盡 以上第一

傍訓不明

教 逼 若諸有情為諸藥叉 以上第一 緊捺洛

莫呼洛伽滿多畢舍麻 以上第一 懺悔 以上第一

陣 以上第一

七

字音

沉痾 淪滯 鐵石 升墜 重 微 鮮 沫聲

芭蕉 拔盡 儼然 蘇 辛 刺 刺 疫癘 苦澀

鎖 賤 駭 馳 以上第一 耆 溫氣 乾枯 謀議 后妃

沐浴 珥墮 訓 印 螺貝 鈔 官僚 枯涸 可責

地藏十輪經元慶點

並びに其讀法明しかりし故に今試みに
讀みて世の讀者の教を供つものなり
〔七〕 生便瘡痍常患苦終口不能言
〔八〕 更復造新惡不善業 乃至命
終 皆安寧滅道

〔七〕 世尊告善哉善哉
罪等五業 有少分苦
愍況能除滅 由是因緣當令汝等長夜
安樂

〔七〕 地藏菩薩令彼一切果實
豐稔 令其自讀或教誦令
其自說 或敷他説 婆羅門旃
荼羅 令不趣向無間地獄 起輕慢心禮
種種惱令不安樂 為令一切三寶種姓
不斷絕故 〔七〕 開示解釋二乘法
義 授命終時 諸佛無上正等菩提

〔七〕 充滿其中 脩何為
妙作何為惡

假名字體

Table with columns of phonetic characters and their corresponding readings in various scripts.

曩に余文部省國語調査委員たりし時、假名に關する諸般の沿革調査を負擔せしが、同委員會廢せられて後、同省より假名遣沿革調査の囑託を受け居たる傍ら、前研究を持續せり。然るに研究資料採集の便宜上、一時畿内地方に移住するの必要を感じ、私かに計畫するところありしといへども、事、意の如くならざるものあり、偶々啓明會に於いて本研究に對し、調査並ひに其出版の經費を補助することゝなれるより、客歲八月遂ひに奈良に移住し、九月より十月に至るまでに、此經卷の東大寺に在るものに就き調査し十一月に至り、正倉院曝涼に際して、同本の第五第七の二卷の聖語藏中に在るところを拜觀し、旁々十二月に至りて完く調査し了れるなり。而して今其大要を摘出して、假名遣及假名字體沿革史料第二編の一分として印刷せるものなれど第一編とは稍體裁に異なるところあり、且つ一部の書に對し紙數を限らず單獨に印刷せるものなるが故に斯く假りに地藏十輪經元慶點と稱したるものなり。願ふに余が微力なる調査事項中、自ら安んぜざる所頗る多く、殊に點法に至りては從來編者の最も疎略にせるものなるに、此經卷の點、古來定例の東大寺點、また東南院點にも合はず、僅かに合へるものはヲトニノハ等に過ぎず。故に一々其字句を讀みて、彼是比較し、稍々大體を知ることを得たるのみ。而も其間先覺者吉澤博士に負ふところ極めて大なり。又奈良移住以後、從來未見の古經頗る多く、其調査に忙殺せらるゝ一方に於いて、其得るところのものを整理し印刷に附せんとするが爲めに、之を按合し淨寫する暇なきを奈何にせむ。仍て止むを得ず奈良帝室博物館勤務技手大宮武麿氏に對し、氏が本務の餘暇この事に當らんことを強請し、以て之を委託せるなり。されば其の體裁の前編に比して大いに面目を新にせるものあるは、主として氏の力に依るものなり。

大正九年十二月

文部省囑託 大矢透 識

終

